

第1章 広陵町の現状

1-1 広陵町の概況

(1) 広陵町の位置

本町は、奈良盆地の中西部に位置し、東は三宅町及び田原本町、南は橿原市及び大和高田市、西は香芝市及び上牧町、北は河合町と接しています。

奈良県の中心都市である奈良市へ直線距離約20km、近畿圏の中核都市である大阪市へは、約30kmの距離にあります。

図. 広陵町の位置



(2) 地形

町域は南北約5.5km、東西約4.5km、行政面積は約16.30km²です。町の東部は平坦な地形、西部は丘陵地帯となっており、中央部を一級河川の高田川と葛城川が流れ、東端には曾我川が流れています。

(3) 沿革

本町の歴史はきわめて古く、馬見丘陵一帯では3,000年程前から人々が集落を形成していたことが知られており、2,000年程前の弥生時代からは弥生式土器をはじめ、多くの遺物が百済遺跡およびその周辺などで発見されています。

以後、農耕を中心とした村落が発展、村々の対立が起こるなか、大和朝廷の国家統一の頃には豪族葛城氏が台頭し、そのもとで奈良時代の繁栄をとげていました。

戦国時代の終焉とともに、租税制度が厳しくなったこともあり、本町は大和木綿、なたね、たばこ、茶等の自然条件を活かした特産品の生産により栄え、南郷池の築造など大規模な農業用水の確保・整備が行われました。

明治後半からは、靴下・織布等の製造が栄えはじめ、大正7年には町北部に大和鉄道（現・近鉄田原本線）が敷設され、箸尾駅が設けられました。

昭和30年、馬見町・瀬南村・百済村が合併し、広陵町を発足。翌昭和31年、箸尾町の編入（一部は昭和32年、大和高田市に編入）により、現在の広陵町となりました。以後靴下・織布などを地場産業として、また「夏秋なす」等の特産品を持つ農業のさかんな町として栄えてきました。一方、大都市圏からの市街化の波により、昭和49年から真美ヶ丘ニュータウンの開発を進めるなど、住宅都市としての一面も持つようになっています。

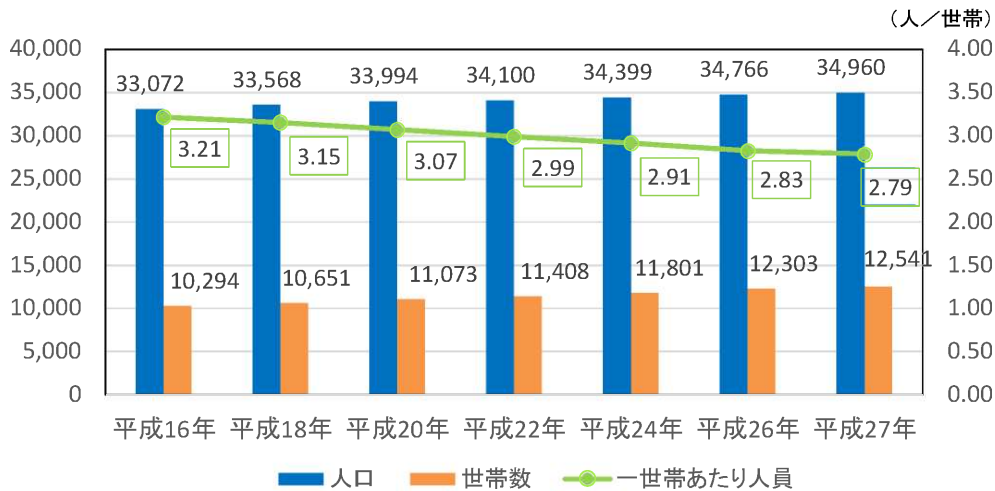
1-2 人口・世帯の動向

(1) 総人口・世帯数の推移

住民基本台帳（各年8月末）によると、平成27年における人口は34,960人、世帯数は12,541世帯、一世帯あたり人員は2.79人となっています。

人口および世帯数は、年々増加の状態が続き、奈良県内15の町のなかで最も人口が多い町となっています。

図. 人口・世帯数の推移



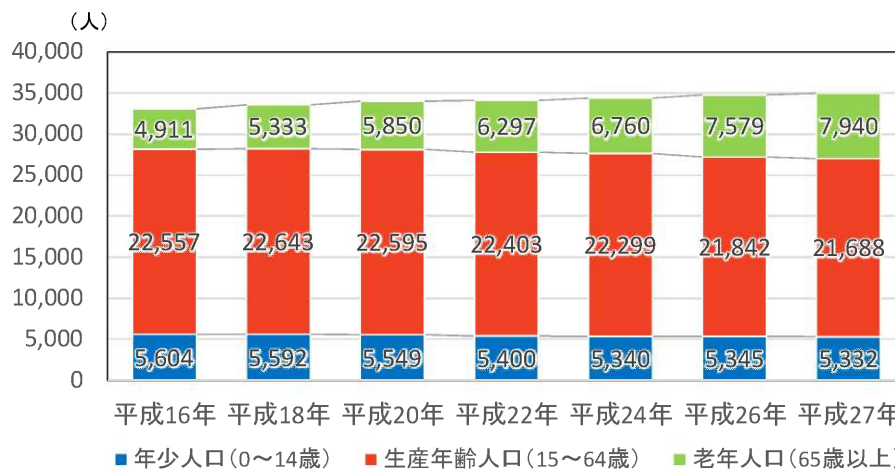
資料：住民基本台帳

(2) 年齢別人口の推移

住民基本台帳（各年8月末）によると、平成27年における年少人口は5,332人（15.3%）、生産年齢人口は21,688人（62.0%）、老年人口は7,940人（22.7%）となっています。

構成比で見ると、年少人口と生産年齢人口は減少傾向、老年人口は増加傾向にあり、少子高齢化が進行しています。

図. 年齢3区分別人口の推移



資料：住民基本台帳

奈良県の年齢区分別人口割合と比較すると、年少・生産年齢人口割合は県内でも2～3番目に高く、高齢化率は2番目に低く、県内市町村と比べると若い世代が多いことがわかります。

図. 年齢別人口割合の比較

	広陵町	奈良県	県内順位 (高い順)
年少人口	15.3%	12.5%	3番目
生産年齢人口	62.0%	59.4%	2番目
老年人口	22.7%	28.1%	38番目
合計	100.0%	100.0%	

※県内順位は、県内39市町村の中で、人口割合の高い順番を示す。

※奈良県及び県内順位のデータは、住民基本台帳による平成27年10月1日現在。(奈良県統計課)

(3) 人口・世帯数の推計

①第4次総合計画による推計

人口推計によると、総人口は平成28年までは増加し、その後、平成33年には減少すると推計されています。年少人口および生産年齢人口は、平成22年より減少していますが、老年人口は大幅に増加しており、今後、高齢化への対応が重要な要素になってきます。

なお、世帯数は、平成33年まで増加し、一世帯あたり人数は減少する見込みです。

図. 総人口・年齢3区分別人口の推計

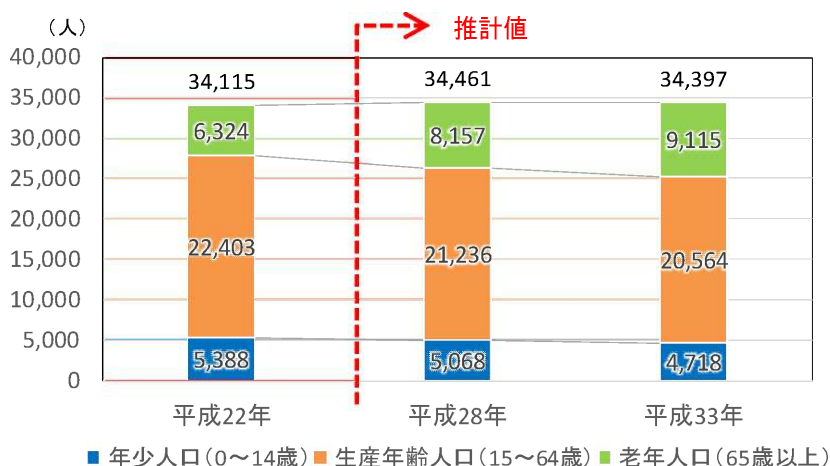
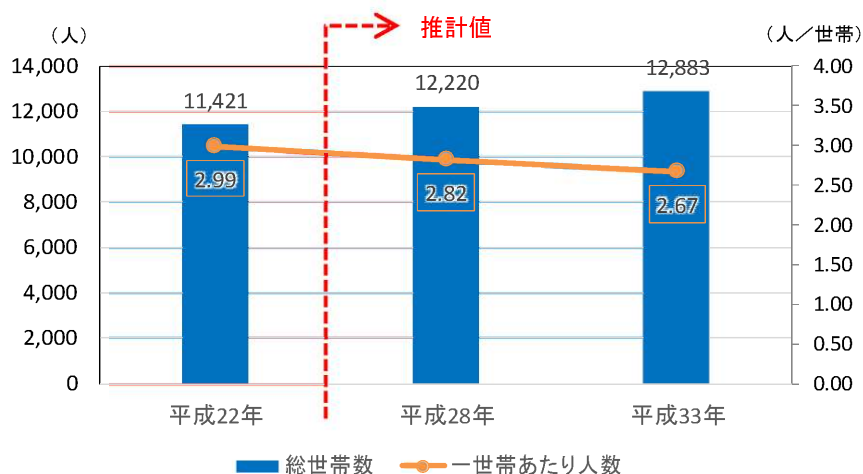


図. 世帯数の推計



資料：第4次広陵町総合計画(町調査人口)

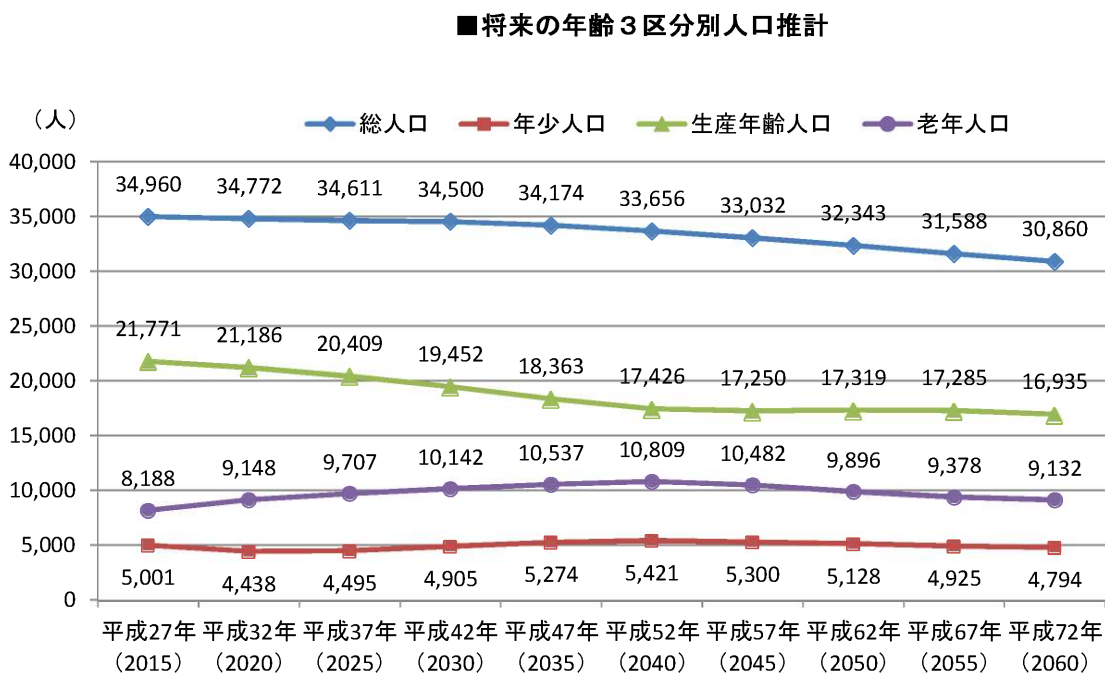
②広陵町人口ビジョンによる推計

まち・ひと・しごと創生の実現にむけて策定されている人口ビジョンでは、今後、日本全体と同様に、本町においても人口減少が進むと想定されていますが、定住対策等、人口維持の施策を軸とした施策の展開により、平成 72 (2060) 年には、人口 3 万人を維持することを目標としています。

施策の反映を見据えた独自推計によれば、老年人口割合は 3 割前後に抑えられ、年少人口は現況並みの 15～16% 台が見込まれます。

このような人口目標を達成するためには、定住環境の要素となる公共交通による利便性を確保することが重要となります。

図. 人口ビジョンによる人口推計



■ 年齢 3 区分別人口割合の推移 (推計)

(単位: %)

区分	平成27年(2015)	平成32年(2020)	平成37年(2025)	平成42年(2030)	平成47年(2035)	平成52年(2040)	平成57年(2045)	平成62年(2050)	平成67年(2055)	平成72年(2060)
年少人口割合	14.3	12.8	13.0	14.2	15.4	16.1	16.0	15.9	15.6	15.5
生産年齢人口割合	62.3	60.9	59.0	56.4	53.7	51.8	52.2	53.5	54.7	54.9
老年人口割合	23.4	26.3	28.0	29.4	30.8	32.1	31.7	30.6	29.7	29.6

資料：広陵町人口ビジョン (平成 27 年度)

(4) 人口動態

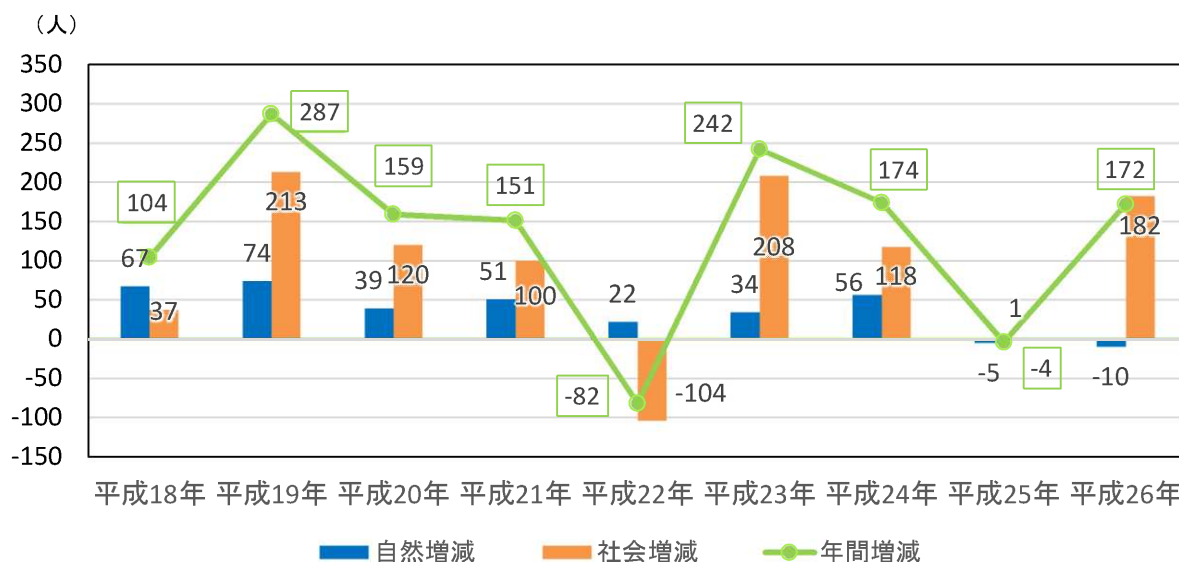
自然増減は、概ね出生数が死亡数を上回って推移しており、自然増の状態が続いてきましたが、平成 25 年に自然減に転じました。

社会増減は、概ね転入数が転出数を上回る社会増で推移していますが、平成 22 年に社会減がみられ、平成 25 年には社会増 1 人と拮抗してきています。

これにより、本町の人口増減数は、平成 22 年と平成 25 年に減少に転じるなど、近年、自然増減数が減少に転じる中で、社会増減数の影響を強く受ける傾向がでてきています。

このため、転入・定住促進を図るための施策として、公共交通の充実が重要になります。

図. 人口動態（各年 3 月 31 日時点）



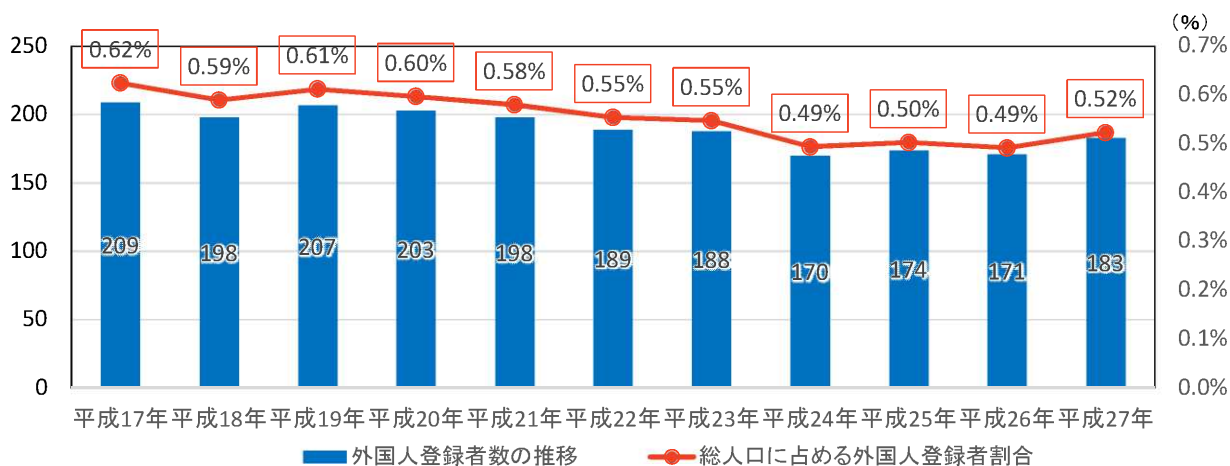
資料：広陵町人口ビジョン(平成 27 年度)

(5) 外国人登録者数

外国人登録者数は近年横ばい傾向にあり、平成 27 年 8 月末時点で 183 人、総人口に占める割合は 0.52%となっています。

公共交通の整備にあたっては、多文化共生の観点からも取り組む必要があります。

図. 外国人登録者数の推移



資料：広陵町統計資料

(6) 通勤・通学による流出・流入人口

国勢調査によると、平成22年における流出人口は12,326人、流入人口は5,603人で、6,723人の流出超過になっています。市町別にみると、大阪市、香芝市、橿原市、大和高田市などへの流動人口が多くなっています。

このように町外への通勤・通学及び町内企業・学校等への通勤・通学の足としての公共交通の確保が必要です。

表. 流出流入人口（15歳以上通勤・通学者の計）

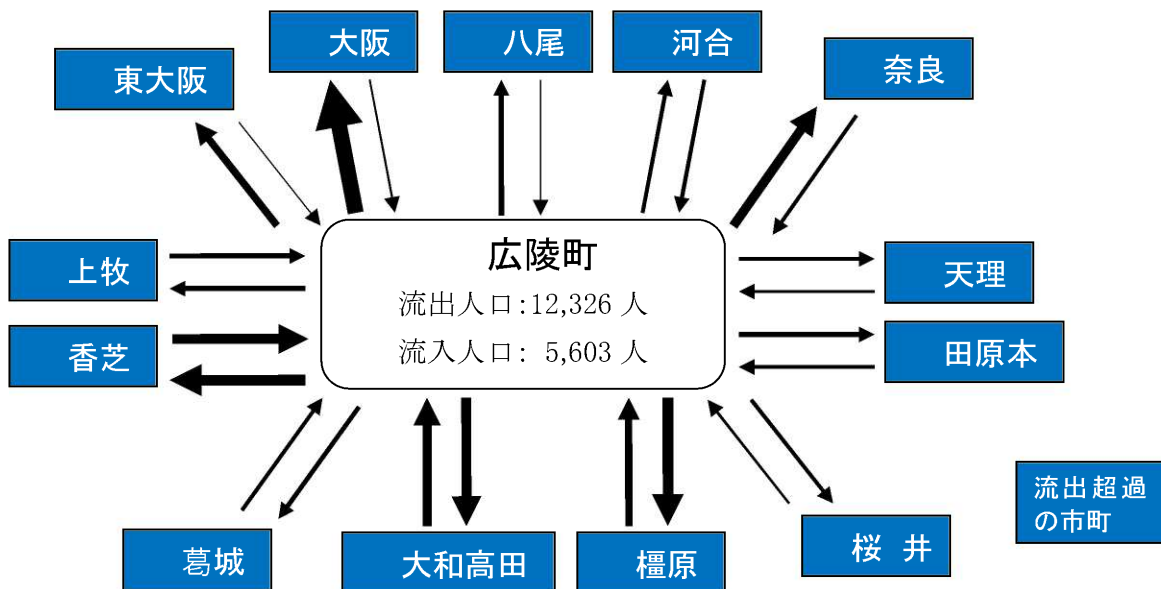
	流出人口	流入人口	昼夜間人口比率
	総数	総数	
平成12年	11,150	4,324	0.78
平成17年	11,850	4,925	0.79
平成22年	12,326	5,603	0.81

平成22年

上位10位市町	流出人口	上位10位市町	流入人口
大阪市	2,854	香芝市	886
香芝市	914	大和高田市	834
橿原市	909	橿原市	548
大和高田市	880	奈良市	272
奈良市	757	上牧町	266
大和郡山市	557	田原本町	233
東大阪市	452	葛城市	221
田原本町	332	河合町	206
八尾市	300	桜井市	170
上牧町	279	大和郡山市	166

資料：国勢調査

図. 市町別流出流入の状況（15歳以上通勤・通学者）《平成22年》



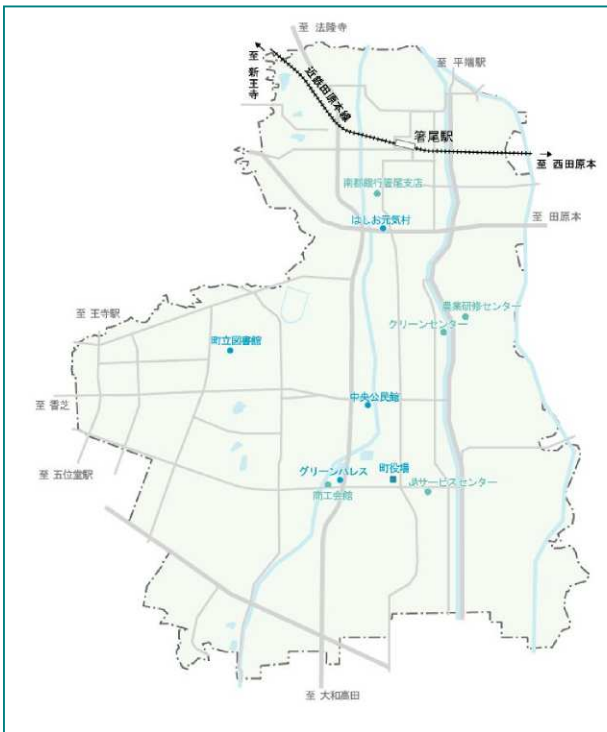
資料：国勢調査

1-3 主な施設の状況

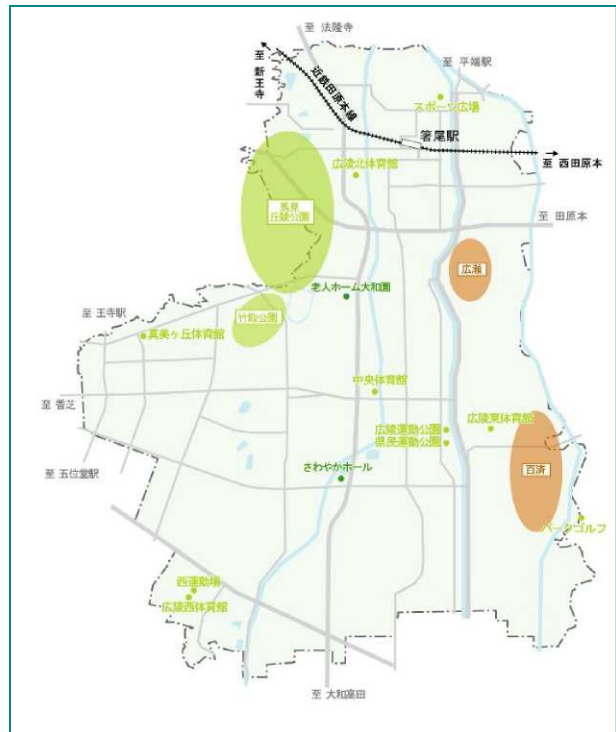
本町の主な施設として、町役場、公民館、図書館、町民活動拠点施設、福祉・高齢者施設、文化・スポーツ施設、小中学校、学習等供用施設、主要業務施設、主要商業施設の状況をみると、幹線道路沿いに多くの施設が立地しています。

図. 町内の主な施設

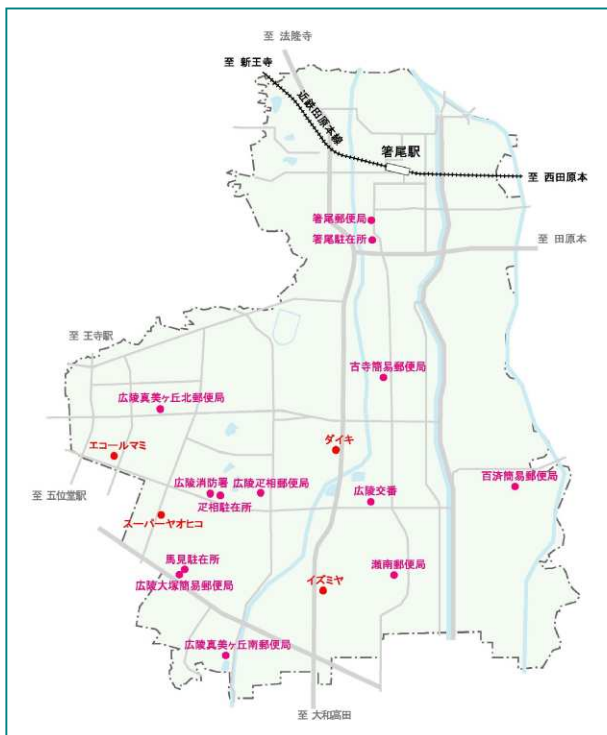
役場・公民館・町民活動拠点施設・主要業務施設等



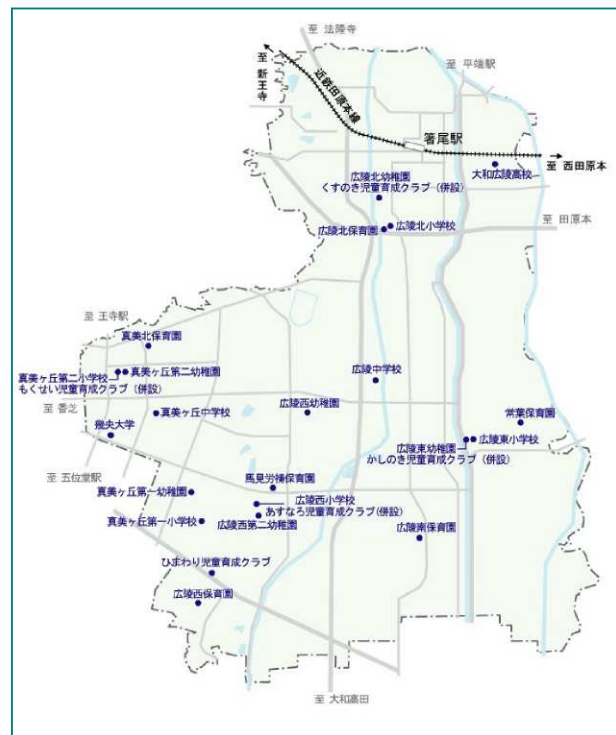
文化・スポーツ・福祉・高齢者施設



交番・消防署・郵便局・主要商業施設



小中学校・学習等供用施設



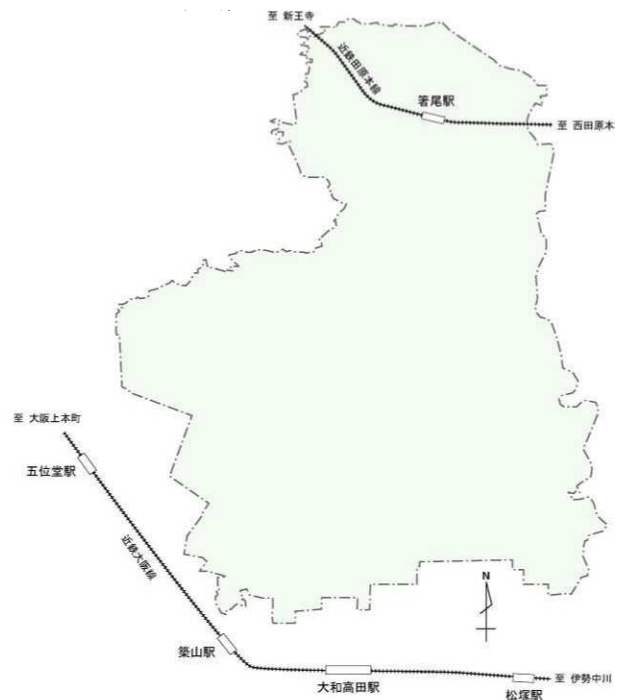
1-4 公共交通の現状

(1) 鉄道

北部地域に近鉄田原本線が通っており、町内には箸尾駅の1駅が設置されています。

田原本線は上下それぞれ1日64本の電車が運行され、箸尾～西田原本を7分、箸尾～新王寺を15分で結んでいます。

箸尾駅周辺を除き、市街地・集落の大半が駅から1km以上離れており、広陵町は鉄道不便地域であるといえます。

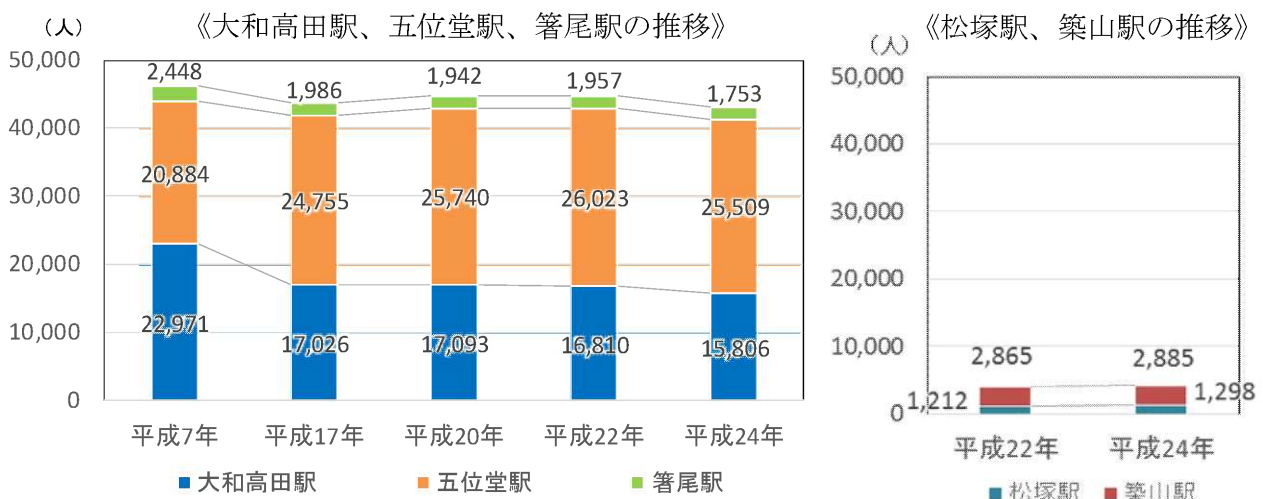


乗降客数

鉄道の乗降客数は、町内の箸尾駅で平成24年は1,753人となっています。その他、町内から町外へのアクセスとして利用の多い五位堂駅と大和高田駅の乗降客数を見てみると、五位堂駅で25,509人、大和高田駅で15,806人となっています。

また平成22年との比較では、箸尾駅で204人、五位堂駅で514人、大和高田駅で1,004人減少しています。

図. 近鉄駅別乗降客の推移



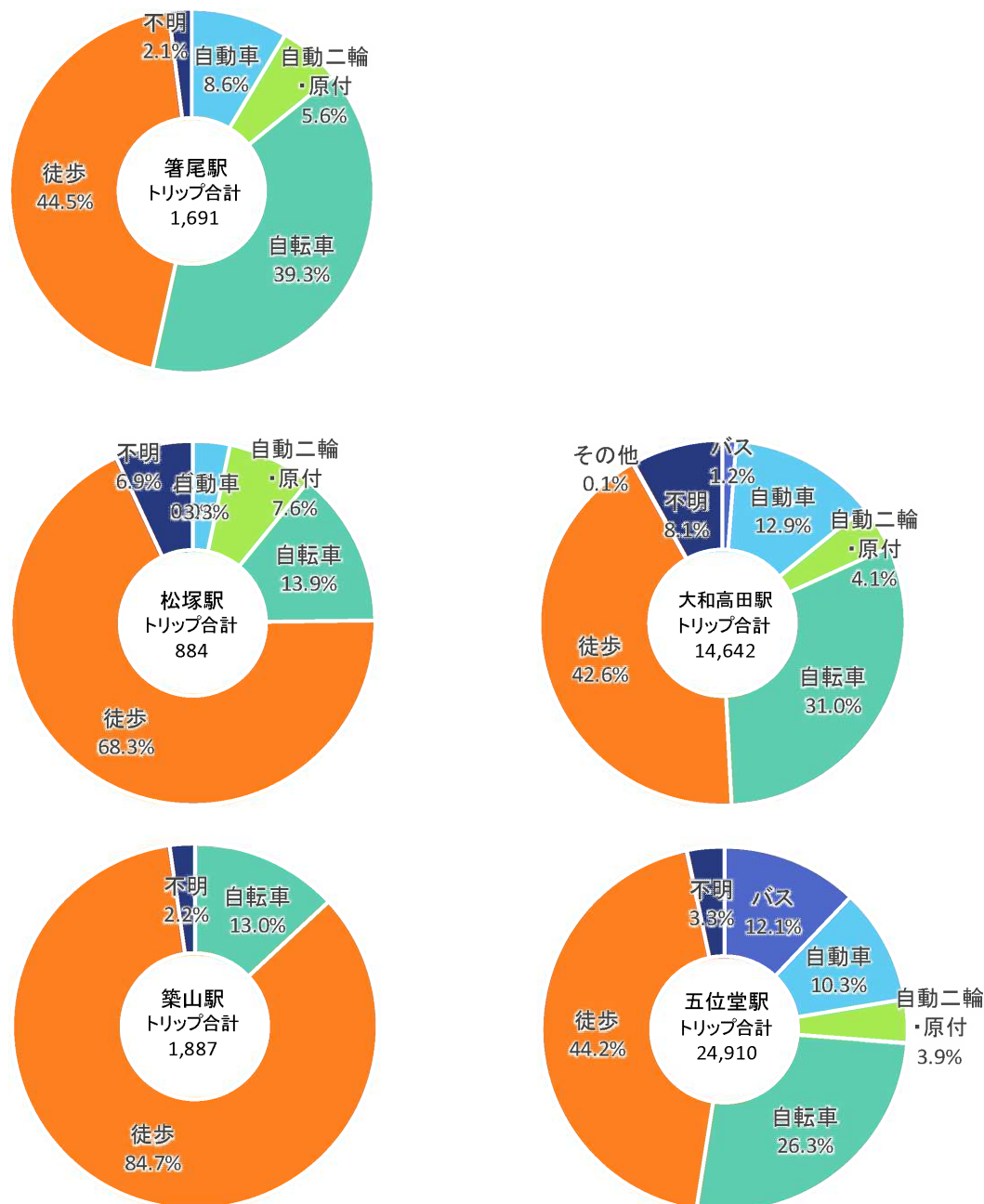
資料：近畿日本鉄道(株)

駅端末交通手段

町内箸尾駅での端末交通手段をみると、『徒歩』が44.5%と最も多く、次いで『自転車』39.3%、『自動車』8.6%となっています。

近隣駅を見ると大和高田駅は、『徒歩』が42.6%と最も多く、次いで『自転車』31.0%となっています。また五位堂駅では、『徒歩』が44.2%と最も多く、次いで『自転車』26.3%、『バス』12.1%となっています。松塚駅と築山駅では、『徒歩』『自転車』の割合が高くなっています。

図. 近鉄駅別端末交通手段（平日：乗降合計）



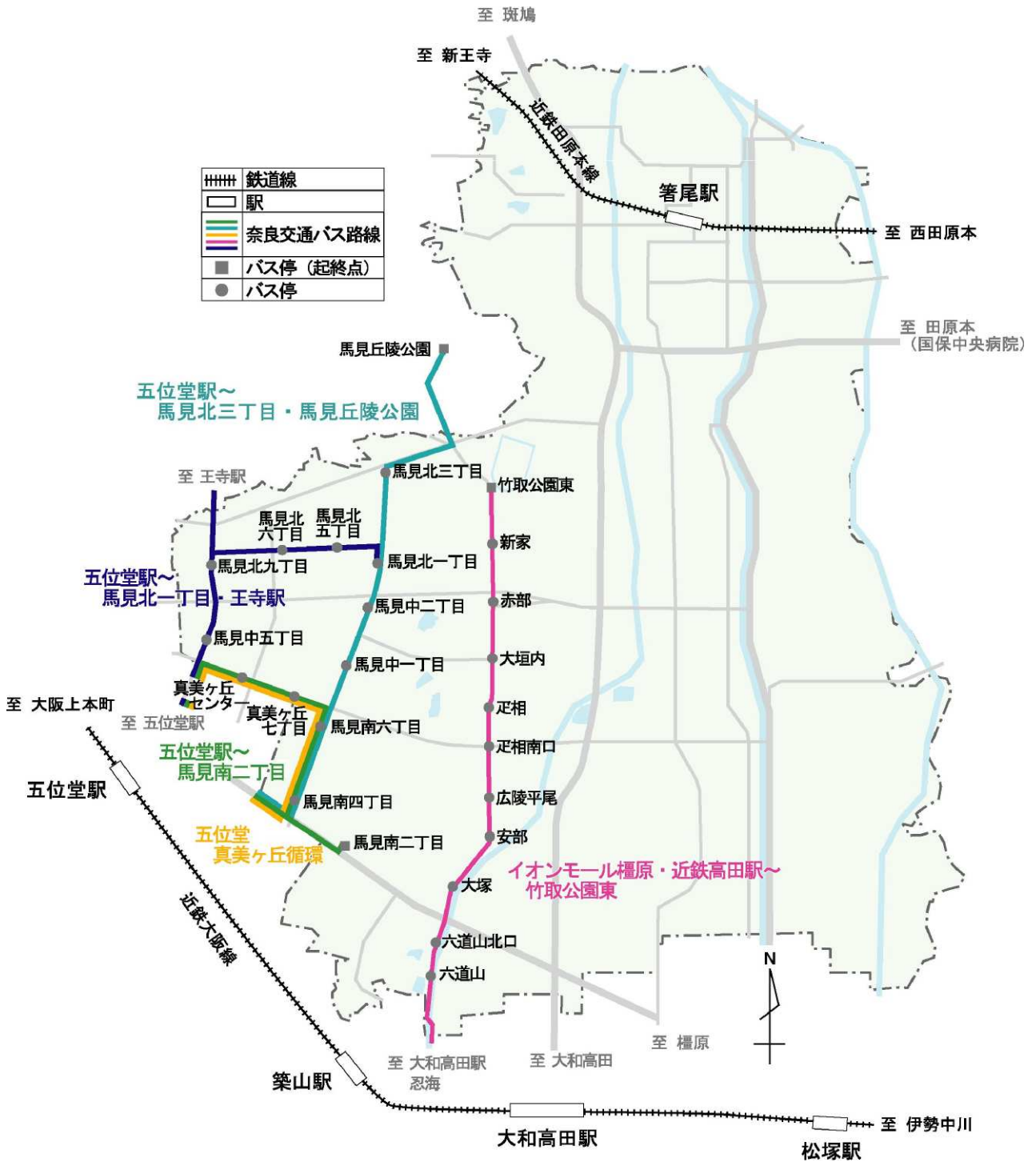
出典：平成 22 年 第 5 回近畿圏パーソントリップ調査

(2) 路線バス

広陵町を通るバス路線は主に真美ヶ丘ニュータウンを中心に運行されています。

また五位堂駅や王寺駅、近鉄大和高田駅といった近隣市町へのアクセスとしても運行されています。

図. 広陵町内 奈良交通バス路線図



(平成28年2月16日現在)

表. 広陵町内 バス路線の状況と運行本数

路線		一日当たり運行本数		
		平日	土曜	日曜祝日
近鉄高田駅～竹取公園東 イオンモール橿原～竹取公園東	竹取公園東行き	19本	15本	15本
	近鉄高田駅方面行き	21本	18本	15本
五位堂駅～王寺駅(上牧町役場経由、 アピタ西大和・桜ヶ丘経由)	王寺駅行き	34本	30本	27本
	五位堂駅行き	33本	29本	27本
五位堂駅～馬見北一丁目(馬見北九丁目 経由)	馬見北一丁目行き	44本	39本	37本
	五位堂駅行き	43本	38本	33本
五位堂駅～馬見北三丁目・馬見丘陵公園	馬見北三丁目行き・ 馬見丘陵公園行き	42本	32本	30本
	五位堂駅行き	42本	34本	29本
五位堂駅～馬見南二丁目(真美ヶ丘セン ター経由)	馬見南二丁目行き	39本	39本	36本
	五位堂駅行き	33本	40本	37本
五位堂駅～馬見南二丁目(真美ヶ丘東小 学校経由)	馬見南二丁目行き	4本	—	—
	五位堂駅行き	8本	—	—
五位堂真美ヶ丘循環		10本	—	—

資料:奈良交通ホームページ(平成28年2月16日現在)

(3) 広陵元気号

①運行ルート

本町では、路線バスの一部撤退を受けて、平成21年4月16日よりバス運行休止路線地域を対象に広陵町直営による無料の予約型乗合自動車「広陵元気号」を試行運行しました。

その後、平成24年2月に運行方式を定時定路線運行に変更し、更に平成25年2月に、運行内容（路線・ダイヤ・車両等）の見直しを行い、近鉄大和高田駅前～広陵町役場～大場などを通る南北線、広陵町役場～真美ヶ丘センター～国保中央病院などを通る東西線の2路線で無料運行しました。運行便数は、南北線・東西線ともに6便（右回り3便、左回り3便）でしたが、町民アンケート調査や利用者アンケート調査で運行本数増便等を望む声が多く寄せられました。

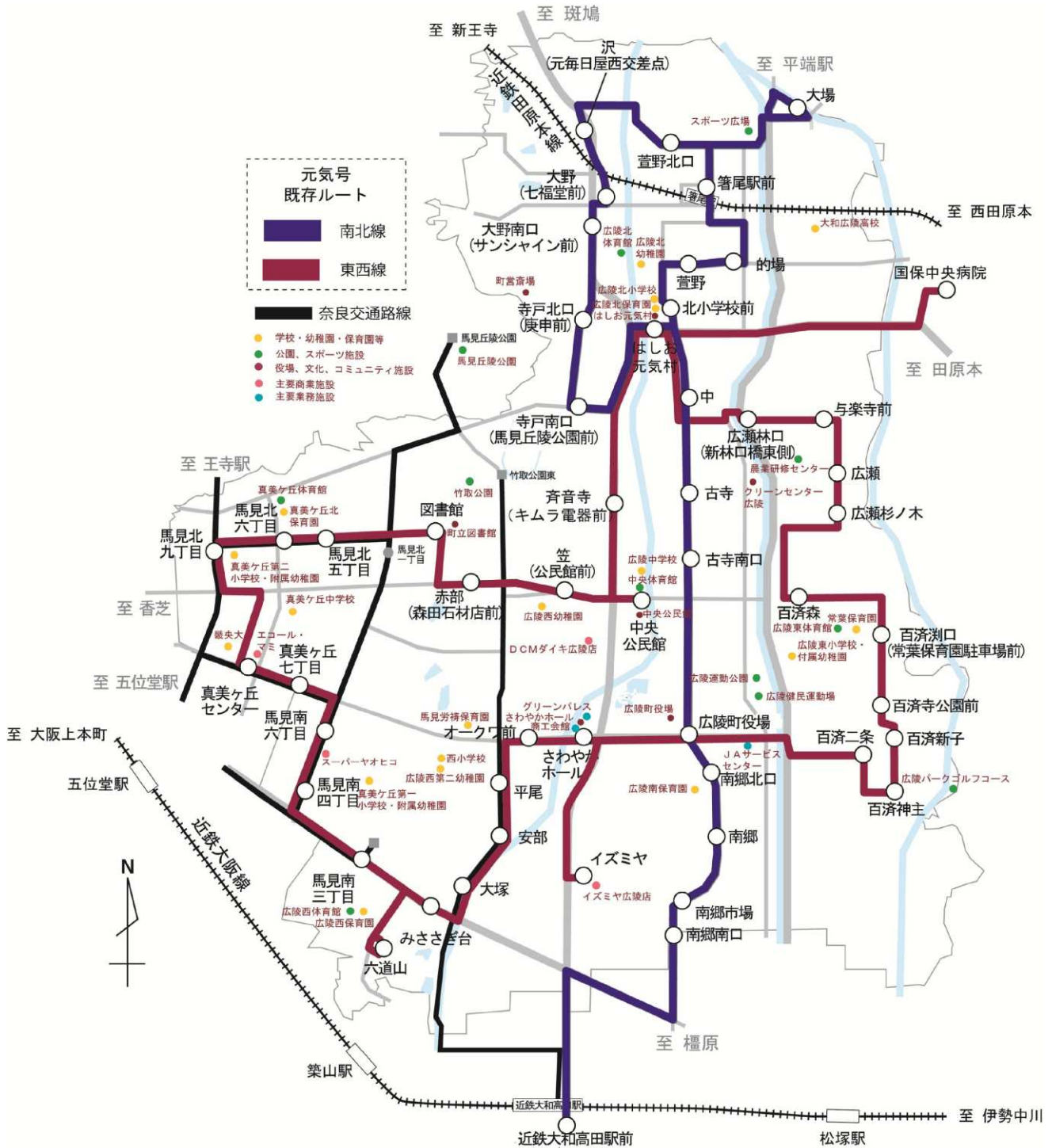
このため、平成27年度にサービス水準の向上を目指して運行ルートと便数の見直しを検討し、平成28年4月から試行運行を行っており、平成28年10月から有料化して本格運行を行います。

また、奈良交通路線と同じ場所にあるバス停では、わかりやすさの観点から、名称と場所の統一を行っています。

表. 広陵元気号の変遷

年度	概要
平成21年度	平成21年4月16日、「予約型乗合自動車」として運行 平成22年2月、委託運行に切り替え
平成22年度	—
平成23年度	平成24年2月、運行方式を「定時定路線運行」に変更
平成24年度	平成25年2月、運行内容（路線・ダイヤ・車両等）を見直し
平成25年度	—
平成26年度	—
平成27年度	運行内容（路線・ダイヤ・車両等）の見直しを検討
平成28年度	平成28年4月、試行運行を実施（平成28年10月から本格運行）

図. 広陵元気号 路線図 (平成 25 年 2 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)



(平成 25 年 2 月 1 日改正)

図. 広陵元気号 路線図 (試行運行 平成 28 年 4 月 1 日～平成 28 年 9 月 30 日)



②利用者数

平成26年度の利用者数は、24,670人です。「予約型乗合自動車」での運行から「定時定路線運行」に変更した後は、利用者数が約8.8倍（H26/H23）に伸びています。また、平成25年2月の見直し後、平成26年度の利用者数は、平成24年度から約46%増加しています。

図. 広陵元気号 利用者数の推移

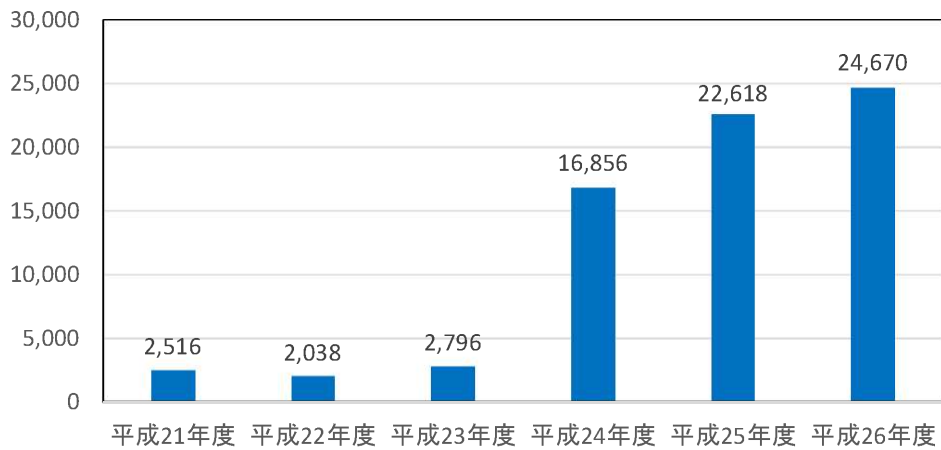
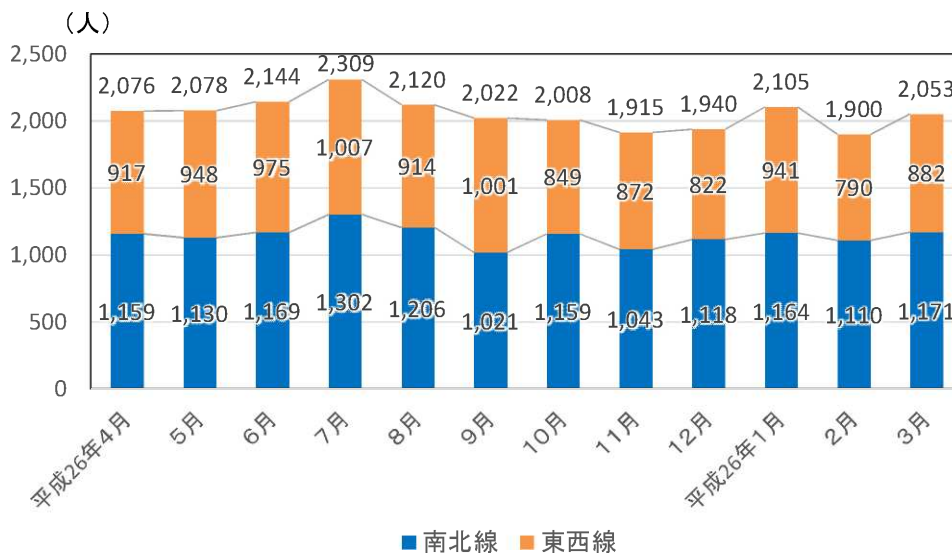


図. 広陵元気号 月別利用者数《平成26年度》



③利用者の特性

平成 26 年度の路線別 1 便あたり利用者数は、4.9～6.7 人となっており、大きな変化はありませんが、便別にみると、利用の多い便と少ない便があります。

停留所別にみると、南北線は、近鉄大和高田駅の利用が突出しており、次いで、はしお元気村、広陵町役場の利用が多くなっています。東西線は、真美ヶ丘センター、はしお元気村、さわやかホールの利用が多くなっています。

一方、広瀬、百済地区のバス停などでは、利用者が少なくなっています。

表. 広陵元気号の路線ごとの特徴

路線	1便あたり日平均利用者数	利用者数の特徴
南北線 (北校区左回り)	5.9 人	<ul style="list-style-type: none"> ・近鉄大和高田駅バス停での利用者が最も多く、町内では、はしお元気村バス停での利用者が最も多い。 ・3 便の利用者が最も多い。
南北線 (北校区右回り)	6.7 人	<ul style="list-style-type: none"> ・近鉄大和高田駅バス停での利用者が最も多く、町内では、はしお元気村バス停での利用者が最も多い。 ・他路線に比べて最も利用者が多く、特に 2 便の利用者が多い。
東西線 (左回り)	4.9 人	<ul style="list-style-type: none"> ・はしお元気村、真美ヶ丘センターバス停での利用者が多い。 ・2 便の利用者が多く、1 便の利用者が少ない。
東西線 (右回り)	5.1 人	<ul style="list-style-type: none"> ・真美ヶ丘センターバス停での利用者が最も多い。 ・2 便の利用者が多く、3 便の利用者が少ない。

※便平均利用者数は、平成 26 年度

表. 広陵元気号 便別乗車客数《平成 26 年度》

(単位：人)

路線	南北線						東西線					
	北校区左回り			北校区右回り			左回り			右回り		
便	1便	3便	5便	2便	4便	6便	1便	2便	3便	1便	2便	3便
乗車数	1,513	2,601	2,352	3,469	2,663	1,154	558	3,107	1,677	1,943	2,812	821
合計	6,466			7,286			5,342			5,576		

図. 広陵元気号 バス停別乗降客数《平成 26 年度》 南北線（北校区左回り）

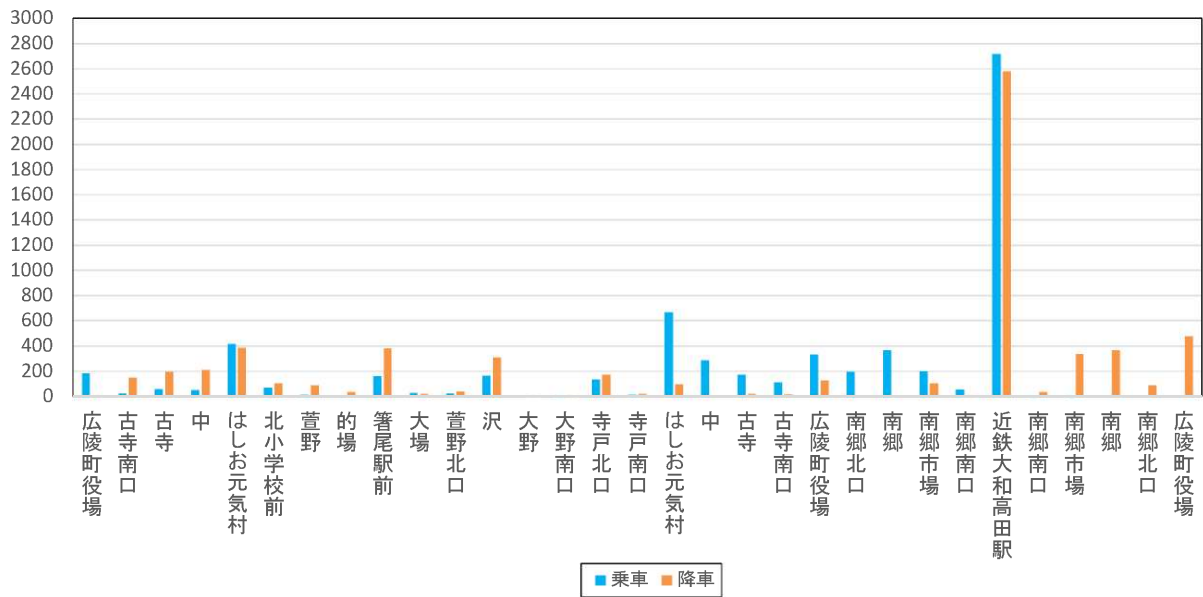


図. 広陵元気号 バス停別乗降客数《平成 26 年度》 南北線（北校区右回り）

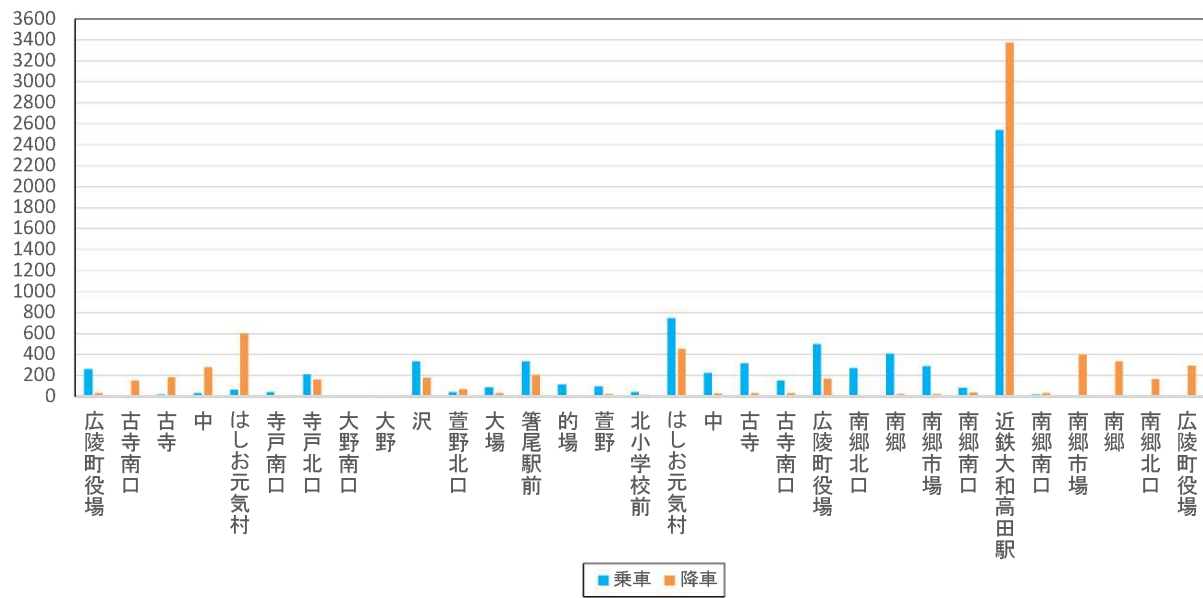


図. 広陵元気号 バス停別乗降客数《平成 26 年度》 東西線（左回り）

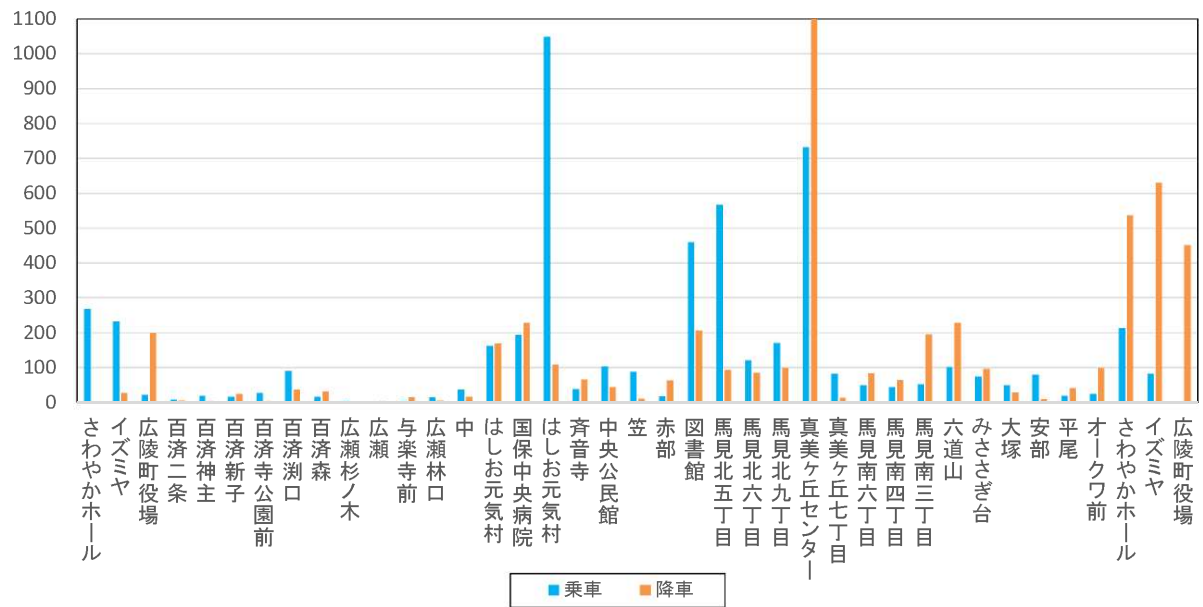


図. 広陵元気号 バス停別乗降客数《平成 26 年度》 東西線（右回り）

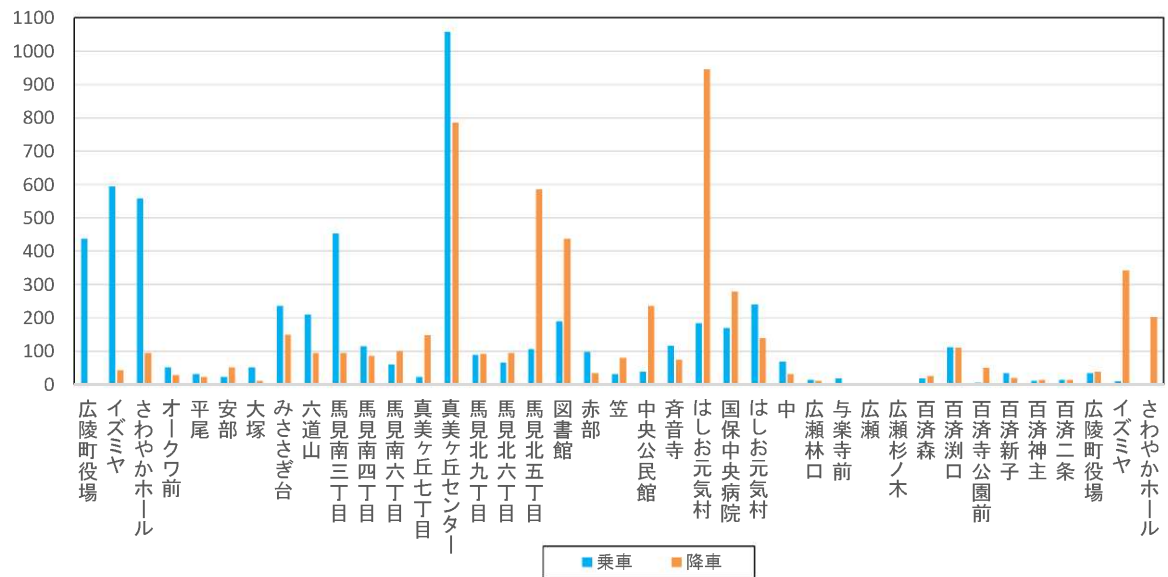


表. 広陵元気号バス停別の年間乗車利用客数（平成26年度）

《南北線》

乗車利用客数順

南北線	乗車	降車
近鉄大和高田駅	5,259	5,955
はしお元気村	1,892	1,537
広陵町役場	1,280	1,105
南郷	784	731
中	593	525
古寺	567	426
南郷市場	506	861
沢	502	488
箸尾駅前	497	590
南郷北口	470	260
寺戸北口	348	332
古寺南口	294	347
南郷南口	164	113
的場	119	42
大場	116	47
北小学校前	112	118
萱野	109	114
萱野北口	62	105
寺戸南口	54	26
大野	14	20
大野南口	10	10
合計	13,752	13,752

《東西線》

乗車利用客数順

東西線	乗車	降車
真美ヶ丘センター	1,791	2,096
はしお元気村	1,634	1,363
さわやかホール	1,040	834
イズミヤ	920	1,044
馬見北五丁目	673	680
図書館	649	644
馬見南三丁目	505	291
広陵町役場	495	690
国保中央病院	363	508
六道山	312	324
みささぎ台	309	246
馬見北九丁目	260	191
百済淵口	203	148
馬見北六丁目	186	180
馬見南四丁目	160	151
斉音寺	154	141
中央公民館	141	280
笠	121	91
赤部	116	98
馬見南六丁目	111	185
中	106	47
真美ヶ丘七丁目	105	162
安部	102	61
大塚	101	41
オクワ前	76	127
平尾	52	64
百済新子	51	44
百済森	34	57
百済寺公園前	33	52
百済神主	31	18
広瀬林口	29	16
百済二条	24	20
与楽寺前	22	17
広瀬杉ノ木	7	2
広瀬	2	5
合計	10,918	10,918

④費用負担

広陵元気号の運行に年間約1,900万円かかっており、利用者一人あたりにすると1回の利用で771円となります。現行は運賃無料ですが、持続可能な公共交通システムとするためには、受益者負担の考えのもと、有料化の方向で検討しています。

表. 広陵元気号の費用負担実績

平成26年度実績				
①年間運行経費 (円) ※1	②運賃収入(円) 無償運行	③=①-② 年間町負担(円)	④年間利用者数 (人/年)	⑤=①÷④ 利用者一人あたり 経費(円/人)
19,010,355	0	19,010,355	24,670	771

※1 運行経費:運行委託料、需用費(消耗品費:タイヤチェーン等、燃料費、修繕費:タイヤ及びバッテリー交換)、車両リース代

※2 人口は平成27年3月末現在

(4) タクシー事業者

本町は、タクシーの営業区域では西大和交通圏（北葛城郡、磯城郡、香芝市、葛城市）に属しており、圏内に登録されているタクシー事業者は 16 事業者です。

表. 西大和交通圏内タクシー事業者

事業者	所在地	保有台数
株式会社愛和	北葛城郡	5
王寺タクシー株式会社	北葛城郡	19
志都美タクシー株式会社	北葛城郡	5
新大和交通株式会社	北葛城郡	11
西和タクシー有限会社	北葛城郡	9
中和交通株式会社	大和高田市	13
広陵タクシー有限会社	大和高田市	3
株式会社サンキュータクシー	御所市	5
井村輸送株式会社	香芝市	8
株式会社協和交通	香芝市	7
田原本タクシー株式会社	磯城郡	5
西村タクシー有限会社	磯城郡	8
ひまわりタクシー株式会社	磯城郡	21
有限会社富士	磯城郡	8
三宅交通	磯城郡	4
株式会社竜田タクシー	生駒郡	19

資料:一般社団法人 奈良県タクシー協会(平成 26 年 10 月現在)

(5) 福祉有償運送事業者

本町で利用できる福祉有償運送事業者は 3 事業者です。

表. 中和地区福祉有償運送事業者

事業者	所在地	町内会員数
特定非営利活動法人 総合福祉介護支援センターあい・I	大和高田市	2 人
社会福祉法人 鳳雛会	香芝市	3 人
社会福祉法人 ひまわり	磯城郡三宅町	9 人

資料:中和地区福祉有償運送共同運営協議会(平成 26 年 10 月現在)